

庭の虫たち 生き物たち

2023-9-14

野口幹夫

今年の蟬の鳴き声は、7月に入ってすぐと早くて、例年より騒がしいほど大きかった。

蟬の大発生は17年周期と聞いた記憶があったので、ネットで確かめたかったがその説は見つからなかった。そこには蟬の地下幼虫の時間は長く、数年のものも長いものは17年とあった。これを聞き誤ったのか。



蟬が鳴くのは裏のお宅の庭で我々の裏庭のようなものだ。我々があとからここに家を建て30年以上お付き合いをいただいたが、一人減り二人減りされて、今は無人だ。樹々は伸び放題、蟬たちは大喜びでこの夏を過ごした。そして9月に入った今はぴたりと静かになった。ちょっと終わりが速いようだ。

蟬が終わるといつもだと我が家の前庭でコオロギが鳴き始めるのだが、なぜか今年はまだ鳴かない。この辺りの子供はカナヘビと呼ぶトカゲやトノサマバッタ カマキリは飛び回っているのにコオロギの鳴き声は聞けない。なぜ？

ふと想像した、食べられたかと。今コウロギは人間様が食べるようになった、先日はじめてスーパーでコオロギせんべいを見つけたので買って食べたが、別に変変わった味ではなかった。いや違う 我が家のコオロギを我々が食べたわけではない。疑うのはガマガエルだ。裏のお宅は数年前から無人になったと書いたが。お元気な頃は、小さな池があり、春になるとカエ

ルの大合唱が始まったものだ。そのガマガエル達は我が家にも越境してきていたのだ。

しかし今池は干上がってなくなった。だから

カエルも発生しない。だがその生き残りがも

う長年 我が庭の片隅で生きている、掃除を

していると、おやこんなことになっていたね

と声をかけると、のそのそと姿を隠す。見る

からに大食漢でエサも少ないからもしコオ

ロギがいたら絶好のご馳走だったに違いない。

この猛暑は虫たちやカエルにも大変な夏だった。もう9月だというのにまだ連日の30度が

続いている。元気にこれまでの生活を続けてほしい。人間の責任でもある。

